



Electric Sound Products **OWNER'S MANUAL**

この度はイーエスピー商品をお買い上げ頂きありがとうございます。
このOWNER'S MANUALは楽器を良い状態でお使い頂く為の取り
扱い説明書です。特に「安全上の注意」、「楽器の正しい取り扱い」
をよく確認のうえ、正しくお使い下さい。

●安全上の注意	P1
●楽器の正しい取り扱い	P2
●作業上の注意	P3
●メンテナンス	P4~5
●乾電池使用モデルについて	P6
●各部名称	P7
●調整に必要な工具類	P8
●弦交換	P9~10
●チューニング	P11
●各種調整機能	P12~14
●ロック式トレモロユニットの各部名称・弦交換	P15~16
●ロック式トレモロユニットのセットアップ	P17~18

安全上の注意

- 本書はお読みになった後も大切に保管してください。

絵表示について

この項では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害、財産への損害等を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

【絵表示の例】



記号は「気をつけるべきこと」を意味しています。



記号は「してはいけないこと」を意味しています。



記号は「しなければならないこと」を意味しています。

警告



湿度の高い場所では使用しないで下さい。

降雨時・降雪時の屋外や、浴室など湿気の多い場所での使用は感電の原因となることがあります。



濡れた手でギターやアンプを触らないで下さい。

感電の原因となることがあります。

注意



さびた弦は使わないで下さい。

さびた弦は切れやすく、思わぬケガをする場合があります。



トレモロユニットに指などをはさまないようにご注意下さい。

トレモロユニットには非常に強いバネが使われています。弦交換時、調整時などトレモロユニットにふれる際は特にご注意下さい。



弦交換後ペグからとび出した部分は短く切って下さい。

弦の先端部分は非常に鋭利ですので、指などを傷付けてしまう場合があります。



とがった部分に注意して下さい。

製品にはデザイン上とがった部分や、とび出したパーツなどがあります。演奏中やメンテナンス中などに、ケガをする場合があります。



ストラップがしっかり取り付けられているか確認して下さい。

ギターが足の上などに落ちてケガをしたり、ギター本体を破損する恐れがあります。



ギターを振り回さないで下さい。

ストラップが外れて落下したり、周囲に被害をおよぼしたりする思わぬ事故の原因となります。



フレットのサイドでのケガにご注意下さい。

湿度などの環境により、フレットが指板からはみ出している場合があります。

楽器の正しい取り扱い

● 演奏する前に

弦が錆びていたら交換して下さい。チューニング、調整を行ない、また周囲が演奏出来る状況にあるか、確認して下さい。

● 演奏した後に

汗などはこまめに拭き取って下さい(特に弦や金属パーツ部)。また演奏後は楽器が湿気を帯びていますので、すぐにケースにしまわないで下さい。スタジオ等でやむなくケースにしまった場合は、帰宅後に、いったんケースから出して下さい。また運搬時や長期間使用しない場合は、ネックへの負担をへらすため、ペグを半回転ほどゆるめる事をおすすめします。

● 楽器の保管場所

高温多湿な場所(浴室付近)や日当たりの良い場所、ホコリっぽい場所(ガレージなど)、油の多い場所(台所付近など)、磁気の強い場所(ブラウン管やスピーカーの近く)は避けて下さい。

<悪条件で発生しうる症状>

- ☆木部の割れ。
- ☆木の収縮、膨張によるパーツ部の不具合。
- ☆塗装の割れや、剥離。
- ☆弦やパーツの錆びや、くすみ。
- ☆電気系統のトラブル。



● ケース

ハードケースは湿気を貯めやすいため、乾燥剤などを入れる事をおすすめします。ギグバック、ソフトケースは外からの強い衝撃を防ぐ事は出来ませんので、運搬時、保管時とも楽器に負担がかからぬようご注意下さい。

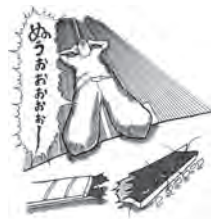
● スタンド

ギター・ベースを壁やアンプ等に立てかけると、倒れて破損する可能性がありますので、スタンドの使用をおすすめします。ただしラッカー塗装やラッカーテイスト仕上げの楽器においては、スタンドのゴムや樹脂で塗装が傷む場合があります。右図のようにやわらかい布をスタンドにかぶせて使用する事で、塗装への影響を回避する事が出来ます。



● ヘッドに角度が付いたギターの取り扱い

ヘッドに角度が付いたギターは大変デリケートです。演奏中、保管中共、ヘッドに強い力が加わると折れる可能性がありますので、取り扱いには充分ご注意下さい。



作業上のご注意

- ☆作業を行う際は、周囲の環境が適しているか確認して下さい。狭い場所での作業は、楽器を動かす際本体に傷をつける恐れがあります。また周囲に人がいる場合は、思わぬ怪我を負わせる危険があります。
- ☆楽器に水分がかからないように注意して下さい。感電や故障の原因になります。周囲に飲み物等、こぼれる危険がある物を置かないで下さい。
- ☆弦の先端には特に注意して下さい。指や眼などに刺さり、重大なケガをする恐れがあります。
- ☆パーツや弦に指や髪の毛などを挟まれないように注意して下さい。
- ☆弦交換時、古い弦を取りはずすために切る際は、必ず弦をゆるめてから切ってください。張ったまま弦を切ると、予測不可能な動きで飛んでくる可能性があります。
- ☆作業中、楽器本体に、必要以上に顔を近づけないで下さい。予期せず弦が切れた場合ケガをする恐れがあります。
- ☆ドライバーやレンチはネジやナットに適したサイズの物を使用して下さい。適さない物を使用するとネジ、ナットを破損し、楽器本体の故障をまねく恐れがあります。また工具によるケガにも充分ご注意下さい。
- ☆必要以上に弦を巻き上げると、弦が切れる恐れがあります。正しいチューニングをするためにも音叉やチューナーの使用をお勧めします。
- ☆クオリティーの高い弦を使用して下さい。粗悪な弦を使用するとチューニングが合いにくい等、楽器本来の性能を損なう原因となります。
- ☆使用済みの弦やその他のゴミは、各自治体の指示に従って分別処理して下さい。

メンテナンス

メンテナンスで使うアイテム

☆クロス類

汚れを拭き取ったり、磨いたりする時に使用します。
楽器専用の物をご用意下さい。

☆スパナ・マルチスパナ・BOXレンチ

ゆるんだパーツを締める時に使用します。

☆ポリッシュ・レモンオイル類

ギター本体の汚れ落としや、
指板の保護等に使用します。
楽器専用の物をご用意下さい。



☆パーツのゆるみ

各パーツの取り付けネジやナット類は、木部の収縮、塗料のヤセ、また楽器本体の振動等によってゆるんで来る事があります。定期的にチェックして下さい。

◆木ネジ類

ドライバーを使って軽く回らしたら締めこんで下さい。ただし過度に締めこむと、ネジそのものや、木部を傷める恐れがあります。特にストラップピンのネジはゆるみやすく、そのまま使うと抜けやすくなります。6点止めヴィンテージ・トレモロの取り付けネジや、PUの高さ調整ネジ等、しめ込む必要のないネジもあります。



色々な木ネジ類

◆ベグナット

ベグを固定してあるナットは弦振動でゆるみやすいパーツです。
弦交換時にチェックし、BOXレンチ、またはスパナで締め直して下さい。



◆ジャック・ポット・SW類のナット

これらがゆるむと断線、ショートの原因となります。ナットを締める際は適切な分解をし、内部のパーツ本体を押さえながら作業して下さい。



◆ベグつまみのガタつき

タイプによっては調整可能です。右回りで硬くなります。



メンテナンス

☆汚れ

汗、手垢、またタバコのヤニ、ほこり等は、放っておくと固着し、塗装の変色や、パーツ類の腐食原因となりますので、こまめに手入れする事が大切です。

◆ボディ・ネック

クロスで空拭きで取れない汚れには、ポリッシュを使用します。その際直接楽器本体に塗らず、クロスにとったポリッシュを塗り広げ、拭きとって下さい。アルコールやシンナー、除光液等は、塗装を傷める恐れがありますので、使用しないで下さい。仕上げにワックスを使用すると、汚れが付きにくくなります。

◆パーツ

金属パーツについた汚れはサビの原因になります。基本は空拭きですが、少量の機械油を布に付けても効果的です。コンパウンドの使用は、メッキが剥がれる可能性がある為避けて下さい。細かい部分の掃除には、綿棒や爪楊枝が便利です。

◆指板

しつこい汚れにはレモンオイル等の専用クリーナーを使用します。特にローズ、エボニー指板は、乾燥により割れが生じやすい為、専用のオイルを定期的に塗りこむ事をお勧めします。油分により、フレットのサビを防ぐ効果もあります。

乾電池を使用するモデルについて

アクティブトーンコントロール回路やEMG PUなどのプリアンプが内蔵されている楽器には乾電池が使われています。乾電池が消耗すると音割れや、音量低下の症状が出ます。乾電池の寿命は使用回路によって異なりますので、定期的に交換する事をお勧めします。

※内蔵プリアンプは、アウトプットジャックにシールドケーブルを差し込む事で、電気回路に電源が入る構造となっています。演奏後はシールドケーブルを抜いて、電池の消耗を防いで下さい。

※長期間使用しない場合は電池を外して下さい。(液漏れの原因になります。)

※プラスマイナスを間違えないように取り付けてください。

※アルカリ電池の使用をお勧めします。

※使用済乾電池は各自治体の指示に従って処理して下さい。



(ESPバッテリーボックスの電池交換)

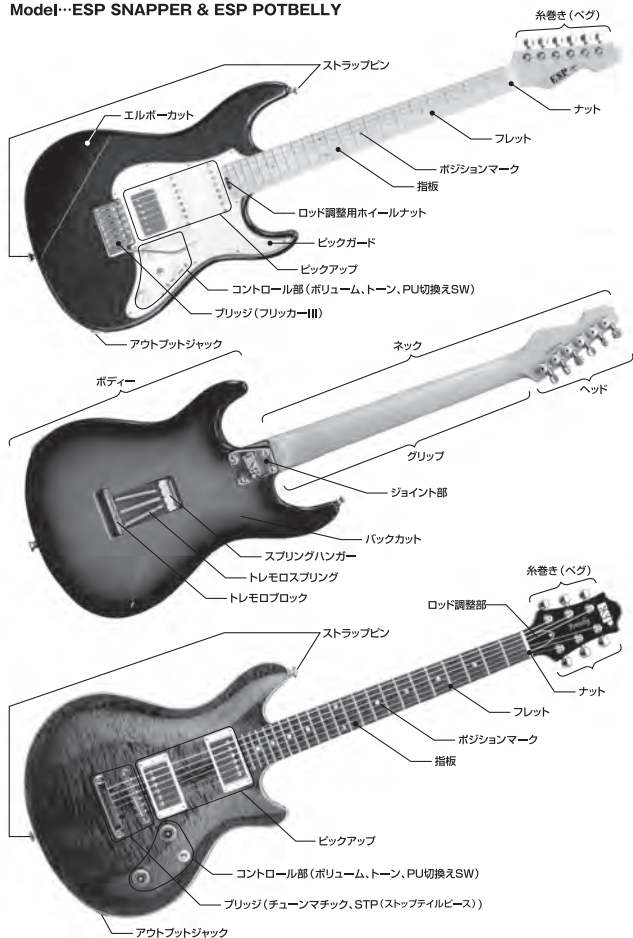


(コントロール収納タイプの電池交換例)



各部名称

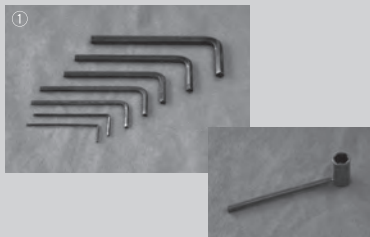
Model...ESP SNAPPER & ESP POTBELLY



調整に必要な工具類

①六角レンチ・パイブレンチ

ネック調整、ブリッジ調整、ロック式トレモロの弦交換等に使用。



②各種ドライバー

- ・プラスドライバー 小 (1番と呼ばれるサイズ)
- ・プラスドライバー 大 (2番と呼ばれるサイズ)
- ・マイナスドライバー 小
- ・マイナスドライバー 大

③弦切りニッパー

※硬線カット用の物をご用意下さい。

④音叉

※通常440Hz (A) の物を使用します。



あると便利なアイテム

①ストリンガー

弦をカットする長さを表示してあります。

②チューナー

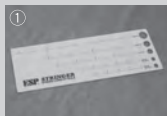
正確なチューニングをサポートします。

③ストリングスワインダー

スピーディーな弦交換が可能です。

④スケール

金属製のモノサシ。
端が0から始まっている物。



弦交換

弦に張りがなくなったり、音が伸びなくなったり、こもってきたりしたら弦交換の時期です。また音色に不満を感じなくても、錆びた弦はフレットの磨耗を早めますので交換が必要です。1本の弦が切れた場合でも、張りたてでない限りは、全交換が理想的です。弦はクオリティーの高い物を使いましょう。一度に全ての弦を外さず、1本ずつ交換すれば元の状態を崩さずに作業が行なえます。慣れていない場合はこの方法をお勧めします。

※弦の太さを変えると、ブリッジのセットアップ、ネックの反り調整など各部の再調整が必要となります。

●弦の外し方

- ①糸巻き(ペグ)を回して弦の張りがなくなるまでゆるめます。
- ②糸巻きの穴から弦を外します。縦穴の場合はそのまま上に抜き取り、ブリッジ付近で弦を切ります。横穴の場合はナット付近で弦を切り、巻きをほどくように抜いて下さい。

※切った際、はじけてケガをする恐れがあります。弦をしっかり持って切るようにして下さい。

※スーパーゼルの場合、裏に弦ロックを解除するダイヤルがあります。弦をゆるめた後に、ダイヤルをゆるめて弦を外して下さい。

- ③ブリッジから弦を抜き取ります。(ブリッジの種類によっては、弦を切らずに外せる物もあります。)

※Floyd Rose等ロックトレモロの弦交換についてはP.15からの項をご覧ください。

※チューンマチックやテイルピース等のブリッジパーツは弦を外すと脱落しやすくボディに傷を付ける恐れがありますのでご注意下さい。

●弦の張り方(ブリッジ編)

- ☆フリッカーIII、ヴィンテージタイプトレモロ等
ボディ裏のトレモロブロックから弦を通します。
- ☆フィクスト・ブリッジ、チューン・マチック&
ブッシュ、ベース裏通しタイプ等
ボディ裏の弦止めブッシュから弦を通します。

【縦穴の場合】



上に抜き取ります



ブリッジ付近で弦を切ります

【横穴の場合】



ナット付近で弦を切ります



巻きをほどきながら抜きます

スーパーゼル



ゆるめる



ヴィンテージ・トレモロ

弦止めブッシュ



フィクスト・ブリッジ

チューン・マチック

弦交換

☆チューン・マチック&STP (ストップテイルピース)

STP (ストップテイルピース) の後ろ側から弦を通します。チューン・マチックの各弦サドルに正しく弦が乗っていることを確認しながら弦を巻いて下さい。



☆ヴィンテージベースブリッジ・カスタムベースブリッジ

各弦サドルの後方の穴から弦を通します。弦を通す際、ボディを傷つけやすいのでご注意ください。



☆HIP SHOT, GOTOH等

弦を通さなくても良いタイプのベースブリッジです。弦の巻き戻しが無い部分をブリッジにはめ込み引っ張ります。



●弦の張り方 (糸巻き編)

糸巻きに弦を巻く回数は、緩みを防止し、テンションバランスをとるためにも2~4回の巻きつけが必要です。例外としてスーパーゼルなどのロック式タイプは巻きつける必要はありません。

【縦穴タイプの糸巻き】



引っ張りながらゆるみのない様に巻いていきます

【横穴タイプの糸巻き】



一回上に巻く事で、ゆるみを防ぐことができます
引っ張りながらゆるみのない様に巻いていきます

【すべりやすいブレン弦・ナイロン弦】

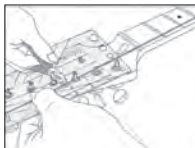


【スーパーゼル】

スーパーゼルの場合、弦を多く巻く必要はないので穴に弦を通し、軽く弦を引っ張りながら糸巻き裏のダイヤルを締めてロックします。余った弦は5mmくらい残して切ります。

別売のESPストリンガーを使えば弦を巻く回数をコントロール出来ます。

簡単に弦の巻く回数がわかるので便利なツールです。



チューニング

正確なチューニング(調弦)をする事は、楽器演奏上達のため、またバンドアンサンブル等においても大変重要です。ここではA音(440Hz)の音叉を使用したレギュラーチューニングの方法を説明します。

(レギュラーチューニング)

GUITAR弦 (7)	6	5	4	3	2	1
音名	B(シ)	E(ミ)	A(ラ)	D(レ)	G(ソ)	B(シ)
BASS弦 (5)	4	3	2	1		



※以下の説明はギター用ですが、ベースにも当てはまり、1オクターブ低い同名名で、各弦は上の表に対応しています。①～④、⑦を参考にして下さい。

※ハーモニクス:特定のフレット上の弦に指を軽く乗せ、ピッキングと同時に指を離すとハーモニクス音が出ます。ここで紹介するチューニングでは5、7、12フレット上のハーモニクスを使います。

※PUはリアのポジション(ブリッジ側)に切り替えてから行って下さい。

①まず音叉を叩いてA音(440Hz)の音を出します。音が消えないうちに、5弦5Fのハーモニクス音を出し同音になるように糸巻きを回して合わせていきます。この5Fのハーモニクス音を基準にして他の弦をチューニングします。(音叉をPUに近づける事で、アンプから出力する事も出来ます。)

②次に6弦5Fのハーモニクスと5弦7Fのハーモニクスが同音になるように、6弦の糸巻きを回して合わせます。

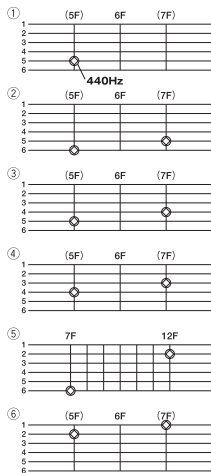
③次に5弦5Fのハーモニクスと4弦7Fのハーモニクスが同音になるように、4弦の糸巻きを回して合わせます。

④次に4弦5Fのハーモニクスと3弦7Fのハーモニクスが同音になるように、3弦の糸巻きを回して合わせます。

⑤次に6弦7Fのハーモニクスと2弦12Fのハーモニクスが同音(オクターブ違い)になるように、2弦の糸巻きを回して合わせます。

⑥最後に2弦5Fのハーモニクスと1弦7Fのハーモニクスが同音になるように、1弦の糸巻きを回して合わせます。

⑦弦の張力によるネックの反りや弦の伸長等の要因により、以上の作業は数回繰り返す必要があります。



※各弦の音程を体感的に覚える事で、スムーズなチューニング作業が出来るようになります。

この他にチューニングメーターを使用したチューニング方法もあります。各メーカーの取り扱い説明書をご覧下さい。

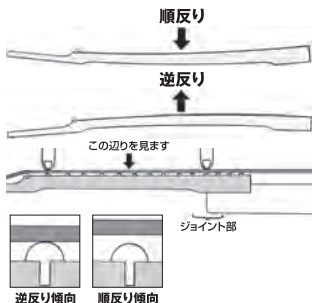
各種調整機能

☆ネックの調整

ほとんどのネックは木で作られており、弦の張力や温度、湿度の影響を受けて状態が変化し、調整を必要とする事があります。ネックの状態は大きく分けて右図のような順反り、逆反りのどちらかになります。反りの状態が酷いとビビリや音詰まりなどの原因となります。

ネックにはアジャスタブルロッドという鉄芯が仕込まれており、ロッドナットを回す事によって順反り、逆反り状態の調整を行う事が出来ます。

まずネックの状態を確認しましょう。6弦の1Fとジョイント部上のフレットを指で押さえて、その真中のフレットと弦との隙間を見ます。隙間がなく弦がフレットにぴったりくっついていれば逆反り傾向、隙間が空いていれば順反り傾向と言えます。ほんの少し隙間（ハガキー一枚くらい）の空いている順反りが理想的です。



【順反りの場合】…ロッドナットを少しずつ締めます

ホイールナット



(ネックエンド側)
※ネックを外さずに調整出来ます。



(ヘッド側)
※カバーを外して調整します。

フレットナット



(ヘッド側)
※ネックを外さずに調整出来ます。



(ネックエンド側)
※ネックの取り外しが必要です。



(ネックエンド側)
※機種によりネックの取り外しが必要です。

【逆反りの場合】…ロッドを少しずつゆるめます

ホイールナット



(ネックエンド側)
※ネックを外さずに調整出来ます。



(ヘッド側)
※カバーを外して調整します。

フレットナット



(ヘッド側)
※ネックを外さずに調整出来ます。



(ネックエンド側)
※ネックの取り外しが必要です。



(ネックエンド側)
※機種によりネックの取り外しが必要です。

ネックの取り外しについて

ボルトオンスタイルのギター及びベースの一部機種は、調整を行う為にネックの取り外しが必要です。

- ・ネックを取り外す前に必ず弦をゆるめて下さい。
- ・ボディとネックの塗料が固着していたり、環境変化によってネックがボディから外れにくくなっていたりする場合があります。無理をすると塗料が剥がれる危険がありますので、状態を見ながら少しずつ作業を進めて下さい。
- ・外したネックは弦の張力がかかっていないため、弦を張った状態よりも逆反り方向に力がかかっています。ある程度は勘で調整し、弦を張り直してあらためてチェックします。適正な状態になるまで作業を繰り返します。
- ・ネックの着脱には高度な技術を要する場合がありますので、プロのリペアマンに相談される事をおすすめします。

※ロッドナットを回す時は少しずつ一気に回すとネックに負担がかかります。また回し過ぎはロッドが破損する可能性もあります。30°位ずつ回し、チューニングとネックの様子を確認しながら作業を進めて下さい。

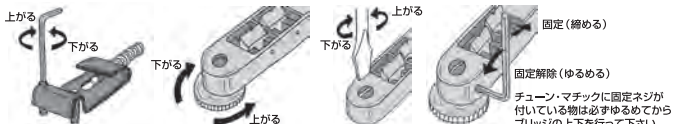
※無理な調整は楽器の破損にもつながりますので、不安な場合はESP正規取扱い店までご相談下さい。

各種調整機能

☆弦高調整

弦高調整は、トラスロッドの調整によってネックを最良の状態にしてから行います。低くすれば運指は楽になりますが、弦のビリつきが起りやすくなります。特に指板の丸みがきつい物の場合、弦のビリつきやチョーキング時の音詰まりなどの症状が出やすいため、多少高めめの弦高設定をお勧めします。

●弦高の調整は使用パーツによって異なり、各ブリッジサドルの上下、又はブリッジ本体の上下によって行ないます。



※出荷時は適正な弦高に調整しておりますので、プラスマイナス1mm。(ブリッジ部高さ)くらいの幅で好みに調整して下さい。

☆ピックアップの高さ調整

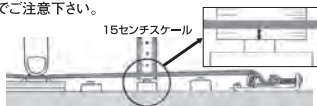
ピックアップの高さはピックアップの取り付けネジを回すことによって弦に近づけたり、離したりすることが出来ます。近づけると出力は大きくなり、離すと小さくなります。アンプで音を出しながら好みの高さに調整します。

※極端に下げすぎるとPUが外れてしまう事があります。

※弦に近づけすぎると、音の伸びが悪くなったり、チューニングが合いにくくなったりします。

また、弦がピックアップに直接触れてノイズが出ますのでご注意ください。

- ①右図の様に最終フレットを押さえた状態で高さを測ります。
※弦の振動はネック側の方が大きいので、ブリッジ側
に比べて少し下げた状態にするのが一般的です。



- ②アンプにつなぎそれぞれのピックアップの出力差を確認しながら調整しましょう。(シングル+シングル+ハムのようにあえて出力差のあるモデルの場合は、この限りではありません。)

(ネック側)	(ブリッジ側)
1弦	1弦
2.5~3.0mm.	1.5~2.0mm.
6弦	6弦
3.5~4.0mm.	2.5~3.0mm.

☆ボールピースの高さ調整

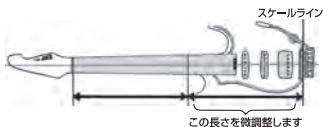
PUの種類によっては各弦でボールピースの高さを調整できます。PUそのものと同じく、弦に近づけると出力が上がります。マイナスドライバーまたは六角レンチで調整します。



☆オクターブチューニング

オクターブチューニングとは各フレットで正確な音程を出す為に弦長を変えて微調整する作業です。押弦によって、若干シャープしてしまう音を、12フレットを基準として補正をします。

弦の太さを変えた時、チューニングを変えた時は、オクターブチューニングの微調整が必要です。オクターブチューニングは、ネック調整、弦高調整、ピックアップ高さ調整などの作業が全て終了した後に行ないます。



各種調整機能

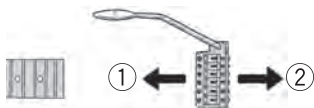
まず12Fのハーモニクス音を鳴らします。次に12Fの実音(押さえた音)を鳴らします。

この時、

12Fのハーモニクスより実音が低い場合はブリッジサドルをネック側に動かします。⇒(①の方向へ)

12Fのハーモニクスより実音が高い場合はブリッジサドルをボディエンド側に動かします。⇒(②の方向へ)

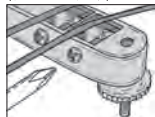
※サドルは少しずつ動かし、その都度チューニングをし直して、2つの音が合っているかどうか確認しましょう。またサドルは弦によって押し付けられた状態の為、動きにくいことがあります。無理に作業するとパーツを傷める事がありますので、その際は弦を一旦緩めてから調整して下さい。



(ヴァインテージトレモロ)



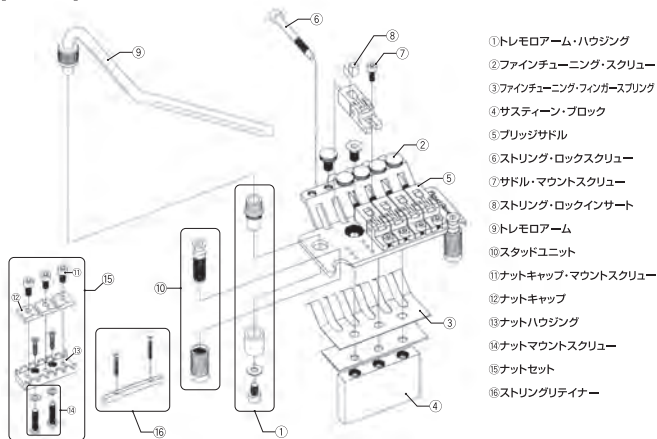
(チューン・マチック)



ロック式トレモロユニットの各部名称・弦交換

Floyd Roseをはじめとするロック式トレモロを扱うには、その基本的構造を理解する必要があります。この項ではFloyd Roseを代表例として各部名称から弦交換、セットアップまでをわかりやすく説明します。

【各部名称】

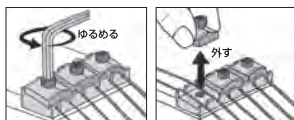


【弦交換】

一度に全ての弦を取り外してしまうと、ブリッジが不安定になり交換しづらくなります。慣れないうちは1本ずつ交換すると比較的楽に行うことができます。

●弦の外し方

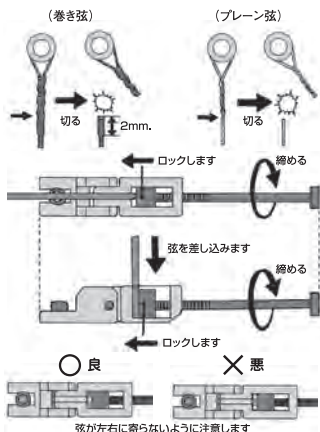
- ①まずナットキャップのマウントスクリューをゆるめ、ナットキャップごと外します。外したキャップは順に並べておいて下さい。
- ②弦を糸巻きから外します。(P.9～10の弦交換を参照)
- ③次にブリッジサドルから弦を外します。弦はロックインサートによって留められていますので、3mmレンチを使用してストリングロックスクリューをゆるめ、弦を外します。ロックインサートをなくさないようにストリングロックスクリューを指で軽く締めておいて下さい。



ロック式トレモロユニットの弦交換

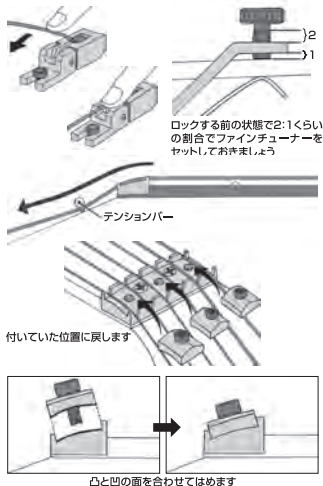
【弦の張り方(ブリッジ編)】

- ①まず弦の下準備を行ないます。右図のように弦のポールエンドを切り取ります。
- ②STRINGロックスクリューをロックインサートの手前に弦が入るまでゆるめます。弦がサドルの中央に位置するように調整しながら、スクリューを締めて弦をロックします。
必要以上の力で締めるとロックインサートが割れたりしますので、過度に締め込まないで下さい。(六角レンチの端を持って締めると必要以上の力が掛からずうまくロックする事が出来ます。)
- ③ロックした弦を軽く指で倒しておきます。
- ④**ファインチューナーのセット**
弦をセットしたらファインチューナーを右図のような位置にセットしておきましょう。



【弦の張り方(ロックナット編)】

- ①弦をSTRINGリテーナーの下に潜らせてから、糸巻きに巻きます。(P.9~10の【弦交換】参照)
- ②ナットキャップとナットキャップマウントスクリューを元の位置に戻し、指で軽く締めておきます。着脱の度にナットキャップの配列を変えるとパーツの傷みが早まりますので、必ず元の位置に戻して下さい。またナットキャップの底面は凹面になっており、ロックナットの凸面と合うように作られています。向きに注意して下さい。
※この時点ではまだナット部ではロックしません。



ロック式トレモロユニットのセットアップ

【セットアップ】

ロック式トレモロユニットは弦の張力と裏に張られたスプリングの張力によってバランスが保たれています。2つの力が釣り合うように、スプリングハンガー取り付けネジの締め加減で調整します。

ロック式トレモロユニットのセッティングには、ノンフローティングセッティングとフローティングセッティングの2つの方法があります。ノンフローティングはアームダウンのみに対応します。フローティングはアームダウン、アップ両方に、対応することが出来ます。ボディがブリッジの形に、一段掘られている物(リセス加工)は、基本的にはフローティングセッティングとなります。

※弦のゲージが同じで、チューニングも同じであれば、ほぼ調整の必要はありません。

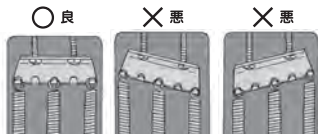
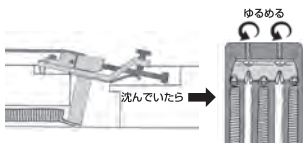
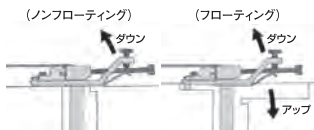
☆ノンフローティングの場合

チューニングを行った後に、ブリッジの状態を確認します。ブリッジが浮いていたら、スプリングハンガー取り付けネジを締めます。再度チューニングし、ブリッジの状態を確認して下さい。アームを硬めにセッティングしたい場合は、少しネジを締め気味にし、逆に軽くしたければ、ブリッジが浮かない程度にゆるめます。

☆フローティングの場合

フローティングセッティングの場合は、弦とスプリングの張力バランスをとり、ボディに対して平行に釣り合うように調整します。

チューニングを行った後に、ブリッジが浮き気味であれば、ハンガー取り付けネジを締め、逆に沈み気味であればゆるめます。スプリング調整後は、その都度チューニングし直して、ブリッジの状態を確認して下さい。ブリッジとボディが平行になるまで以上の作業を繰り返します。

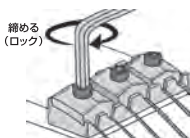


スプリングハンガーは平行な状態にセッティングして下さい。

ロック式トレモロユニットのセットアップ

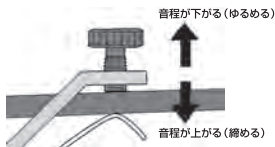
●弦のロック

セットアップが終了したら、ロックナットのナットキャップマウントスクリューを締めて弦をロックします。レンチの端を持って8分くらいの力で締めて下さい。



●ファインチューニング

弦をロックした後はチューニングが微妙にずれるので、ファインチューニングスクリューで微調整を行います。上にゆるめると音が下がり、下に締めると音が上がります。
※ファインチューナーの可動範囲は狭いので、チューニングスクリューを回しきってもチューニングが合わない場合は、一度ロックを外し、ファインチューナースクリューを右図の位置に調整直した後、上記の作業にもどって下さい。



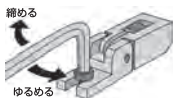
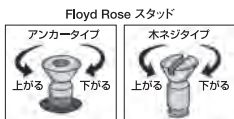
●弦高調整

Floyd Roseは、本体を支える2本のスタッドを回すことによって弦高調整が可能です。

※弦高調整後は再度チューニングを行って下さい。

●オクターブ調整

- ① ナットのロックを解除して、調整したい弦をゆるめます。
- ② ブリッジサドルのサドルマウントスクリューをゆるめて、ブリッジサドルを合わせたい方向へ動かします。(元の位置を把握しておき、少しずつ動かして下さい。)再度マウントスクリューを締めます。
- ※オクターブチューニングについてはP.13~14を参照下さい。
- ③ 再びチューニングをしてオクターブが合っているかを確認します。オクターブが合うまで①~②の作業工程を繰り返します。



【作業上の注意】

- ※ロック式トレモロユニットには構造上鋭利な部分がありますので、誤って手などにケガをしないように注意して下さい。
- ※ロック式トレモロユニットには定期的な交換が必要なパーツがあります。チューニングが合わない、弦が留められないなどの症状が出ましたら、楽器店などに、ご相談下さい。

